



写真を通じ、子どもたちに 天体に興味を持ってもらいたい!

アマチュア天文家・
写真家
飯田浩規さん(55歳)日高町東河内

アマチュア天文家・
写真家



全但バス但馬ドームのギャラリーに美しい星空が広がります。展示されている約30点の天体写真を撮影したのは、飯田浩規さん。同ドームで3回目の個展を開催中です。

天体に興味を持ったのは、小学校5年生の頃。学校の授業や雑誌などがきっかけでした。その後、20歳ぐらいの時に、天文愛好家グループ「里の会」に入会し、本格的に天体写真を撮影するようになりました。

自身で納得のいく写真が撮れるようになったのは、平成

9年にヘール・ボップ彗星を撮影したあたりから。この時の写真は、今でも一番思い入れがあるとのこと。写真の他にも、天文館のオペレーターや天体を観賞する観望会の解説員など、精力的に天体の魅力を伝える活動を行っている飯田さん。写真展について「但馬ドームは子どもたちがたくさん訪れるので、写真を見て天体に興味を持ってくれたらうれしい」と笑顔で語ります。

写真展は、2月11日(月)・祝)まで開催中です。

Toyooka Topics —とよおかの“旬”な人と話題—



▲市役所の玄関に届けられたプランター

豊総生によるプランター設置 かわいいトナカイとサンタからの贈り物

平成30年12月19日から21日にかけて、豊岡総合高校インターアクトクラブが、京都丹後鉄道豊岡駅やクリーンパーク北但など市内5施設に、花の寄せ植えプランター30個を設置しました。

ふるさと貢献活動の一環として、日本海に流れ着いたゴミを回収・加工して作ったプランターに、パンジーやビオラなどを移植。21日には、6人の会員がトナカイやサンタクロースに扮し、一足早いクリスマスプレゼントとして、市役所本庁舎に12個のプランターを届けました。

同クラブ会長の吉谷野花さん(2年)は「環境に関心を持ってもらい、ごみ問題の認知につながればうれしい」と話していました。

出高アンテナショップ 但東中生も物産販売などを体験

平成30年12月16日、本年度最後の開催となる出石高校アンテナショップの一角で、但東中学校2年生30人が、5月の修学旅行の際に東京で行う本市のPR活動の練習を行いました。

出石観光センター前を中心に、道行く観光客に声を掛け豊岡のPRをする班と、物産販売をする班に分かれ、午前11時に活動開始。元気な声につられ次々に人が集まり、ちくわパンや但馬わかめなど4種類、合計105個の商品は予定よりも2時間早く完売しました。岡本 宙さんは「東京の人に豊岡と但東のことを知ってもらい、多くの人に来てもらいたい」と本番への意気込みを語りました。



▲はきはきとお客さんとコミュニケーション